



## 「質の高い教師の確保」

全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会

会長 大関 浩仁



第60回全国研究協議会愛知大会が、令和5年8月3日に愛知県蒲郡市民会館にて対面開催（一部オンライン併用）され、盛会のうちに終わりました。当日は台風の影響による空路事情により、残念ながら参集を見送られた方もおいででしたが、4年ぶりに全国から参集での開催となった協議場面では各地の情報や意見が活発に交わされ、実り多い大会となりました。本大会の成功は、愛知県教育委員会、蒲郡市教育委員会、愛知県特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会の皆様方の御尽力によるものです。厚く御礼を申し上げます。また、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 石田善顕様からの祝辞、愛知県医療療育総合センター中央病院児童精神科医 吉川 徹先生の講演には、オンラインにて全国の会員の皆様に参加いただきました。そして、会場に参集いただいた380名の会員には3分科会に分かれて、6つの提案について協議を進めていただき、各地の学校経営上の工夫を知り、役立てていただく貴重な機会となりました。

さて、国においては現在、第12期中央教育審議会の初等中等教育分科会「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方特別部会」にて、学校教育が抱える諸課題の解決に向けた検討がなされているところです。第5回目となる特別部会（9月7日）では、議題の一つとして「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）」（会議資料等の詳細は文部科学省ホームページにてダウンロードが可能）について検討されました。提言の中では、持続可能な勤務環境整備等の支援の充実として、教職員定数の改善が掲げられています。具体的な文言としては、「小学校高学年の教科担任制の強化など」と示されました。そのことを受けまして、全特協を代表して出席する委員として、特別な配慮を要する児童生徒が増加している実態を踏まえて特別支援教育コーディネーターの定数化も必要であるとの意見を述べてまいりました。そのことに対して、企画官より特別支援に関する内容も今後の検討としたいとの回答をいただきましたことをここに報告いたします。また、関連しますが、「「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について」への意見として、特別支援教育コーディネーターの定数化（専任化）のほか、特別支援学級編成基準の見直し（8人1学級→6人1学級）についても併せて書面提出してまいります。特別支援学級の教員定数の改善や特別支援教育コーディネーターの定数化は、全特協にとりまして、その実現を強く望むものです。今後とも、全国調査やブロックの全国副会長を通じた実態把握、情報交換等を通して得られます会員皆様の声を積極的に国へ届けることにより、課題解決を図ってまいります。

次に、国立特別支援教育総合研究所（NISE）での「発達障害教育の情報提供等にかかる検討会議」についてです。8月24日の第2回検討会議では、昨年度の全国調査に基づいて通級指導教室を担当する教員等の現状を話題提供いたしました。検討会議では、参考となる校内研修の様子等も報告され、特別支援教育に関するナショナルセンターであるNISEの諸情報が各校にとり非常に有効であること、全特協として今後とも協力体制を継続し、専門性向上に役立てたいとの思いを再認識いたしました。

末筆となりましたが、会員各校のさらなる発展をお祈り申し上げ、巻頭の挨拶といたします。

## 第60回 全国研究協議会 愛知大会

愛知大会実行委員長 半田 憲生

令和5年8月3日、全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会第60回全国研究協議会愛知大会を、蒲郡市民会館において、4年ぶりに対面での開催をいたしました。全国理事の皆様及び全国各地から御参加いただきました校長先生方のおかげで、無事に愛知大会を終えることができました。また、大会の一部（開会行事・記念講演）については、オンラインでの配信する方法を取り入れ、より多くの方々に情報を提供することができました。

心より感謝申し上げますとともに、以下、大会について御報告いたします。

### <開会行事>

主催者挨拶 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会 会長  
第60回 全国研究協議会愛知大会 実行委員長  
来賓祝辞 文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課 課長  
愛知県教育委員会 教育長代理 特別支援教育課 課長補佐  
蒲郡市 副市長

大関 浩仁  
半田 憲生  
石田 善顕 様  
福井有希子 様  
大原 義文 様



※開会行事では、心温まる歓迎の言葉と、蒲郡市と特別支援教育との歴史的なかかわりの深さの紹介などが行われ、参加者も改めて意識を高めることができた。

※特別支援教育課石田課長の行政説明では、短い時間に、通常の学級での特別支援教育的な支援の必要な児童生徒数の増加に触れるなど、今、学校の教育活動にとって、特別支援教育がいかに大切になってきているかを示していただき、たいへん勉強になった。

### <講演>

「みんなが一緒」をやめて 周囲を巻き込む ―発達障害の理解と支援―  
愛知県医療療育総合センター中央病院 子どものこころ科（児童精神科）  
部長 吉川 徹 様



#### 《講演内容抜粋》

#### 1 発達障害とは

- |               |   |                      |
|---------------|---|----------------------|
| (1) 自閉症スペクトラム | } | ・発達障害の特徴と通常の発達との違い。  |
| (2) ADHD      |   | ・社会生活に必要な行動の身に付けづらさ。 |
| (3) 学習障害      |   | ・発達障害の特性に基づいた指導の必要性。 |

#### 2 支援の原理

##### (1) 動機への支援が大切

○動機の不足を補うために、大人がやってしまう危険な方法①②③ →こじれのリスクとなる

①強制・罰 ②ルーティン ③自ら課したルール、理念

○課題を観点によって分類する →☒に取り組む

- |            |          |                                                    |          |
|------------|----------|----------------------------------------------------|----------|
| ①「難しさ」で分類  | ア 一人でできる | <input checked="" type="checkbox"/> 手助けがあればできる     | ウ できない   |
| ②「やりがい」で分類 | ア やりたい   | <input checked="" type="checkbox"/> 応援やご褒美があればやりたい | ウ やりたくない |
| ③「疲労度」で分類  | ア 楽々できる  | <input checked="" type="checkbox"/> できるけど疲れる       | ウ できない   |

○「できること」より、「やりたくなること」を目指す

・歯磨きができる⇔歯磨きがしたい ・絵が描ける⇔絵が描きたい ・完成できる⇔挑戦したい

→「できたら褒めましょう」は× →できたときの報酬は、本人の達成感・満足感で事足りる

- ・「大人は完成や達成、勝利に関心がある」と子どもが勘違いすると、こじれが生じる。
- ・大人は「挑戦と失敗が大好き」であるふりをする。取り掛かり始めたら、応援する。

○発達障害のある子に「教える」のは難しい →したいこと①「手伝う、代行する」、②「安全を守る」

①発達障害のある子を「手伝う、代行する」

- ・できないことを手伝う、代行する。(片付け、登校準備…)
- ・コミュニケーションを代行する。(所持品確認、かわりに謝る…)

②発達障害のある子の「安全を守る」 →大人の見守りが必要

- ・これをしたら何がおこるか、想像しにくい。 ・何かに興味をもつと、他事が目に入らなくなる。
- ・大事な情報が「自動的に」入ってこない。

## (2) 人手の集め方

○校内では、「仮」に理解して、「実際に」支援する

→診断とニーズには、ずれがあることも →現場でよく見ることが大切

○「仮」の理解と支援の実績をもって、保護者との相談を始める

○子どもを巻き込む →大人の理解が他の子に伝わる。(関わり方を示す。具体的な支援方法を伝える。)

## (3) 「みんなが一緒」をやめる

○「みんなが一緒」がよいことだ、当たり前だという価値観を打ち出すと、教師は苦しくなる。

○先生が「みんな一緒」を喜んでいないことを空気で示す。きちんと「特別扱い」をする。

(例) じっとしているのが苦手な子には「黒板消し係」に任命して、授業中に黒板を消す機会をつくる。  
書字の苦手な子には、デジカメで黒板の写真を撮ってもらう。

※講演では、吉川徹先生から、発達障害のある児童・生徒をどう見るか、その支援をどう展開するかについて、具体的に説明していただいた。一人一人に合った支援を展開するためには、時として、学校の常識である「みんな一緒」の意識が邪魔になることもあるため、「みんな違って、みんなよい」の考え方でいきたいことなどをお話していただいた。目から鱗が落ちるような話であった。

## <分科会>

第1分科会 特別支援教育の校内体制の充実を目指す学校経営

○岐阜県高山市立東小学校長 佐藤 義晃                      ○名古屋市立堀田小学校長 中村 麻美

第2分科会 特別支援教育の推進を担う教職員の育成を図る学校経営

○石川県白山市立千代野小学校長 中川 学                      ○東栄町立東栄中学校長 夏目 貴司

第3分科会 関係機関との連携を進め特別支援教育の充実を図る学校経営

○静岡市富士市立今泉小学校長 荊沢 孝之                      ○小牧市立篠岡中学校長 福嶋 淳代

※午後の分科会では、グループでの話し合いや意見交流の場で、校長として大変に感じていることや工夫していることを、顔と顔を合わせて話すことができた。直接、話し合う機会がもてたことへの満足感が高かった。

## <大会参加者アンケートより>

○大会運営について

- ・1会場ですべての会議を開催していただいたので、同県のメンバーが参集しやすく、よかったです。
- ・参集型にさせていただいたおかげで、他県の方とも出会うことができ、交流もできてよかったです。
- ・準備や運営は大変だと思いますが、今後もオンライン併用のハイブリッド型の研究大会継続を希望します。
- ・できることなら二日間開催できればと感じた。講演も全体会も分科会も、もっと生きてくると思う。

○記念講演・分科会について

- ・吉川徹先生のご講演が大変良かった。たくさんのことを学ばせていただきました。資料のデータもお送りいただきましたので、有効に活用させていただきたいと思います。
- ・分科会は、自由に意見交換できる雰囲気よかったです。他県の状況がよく分かり、勉強になりました。
- ・午後開催だったので、参加しやすかったです。
- ・初めて参加したが、大変学びの多い大会でした。講演も、もっとお聞きしたかったし、分科会も沢山の方と意見を交わしたかったです。

**令和5年度 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会  
第38回 関東甲信越地区研究協議会 栃木大会**

1. 研究主題 「学校における一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進」
2. 期 日 令和5年11月10日(金) 13:00～16:30
3. 会 場 栃木県教育会館大ホール 栃木県宇都宮市駒生1-1-6
4. 日 程
  - (1) 開会行事 13:00～13:15  
主催者あいさつ  
全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会 会長  
関東甲信越地区研究協議会栃木大会 実行委員長  
来賓祝辞
  - (2) 記念講演 13:15～14:30  
演 題 「特別支援教育を充実させるための視点 ―インクルーシブ教育の原点を考える―」  
講 師 宇都宮大学名誉教授 池 本 喜代正 氏
  - (3) 実践発表 14:40～15:50  
＜実践発表1＞ 「本校における特別支援教育の体制整備」  
栃木県栃木市立合戦場小学校 庄 司 英 樹 校長  
＜実践発表2＞ 「インクルーシブ教育の視点に立った、きめ細やかな支援体制の構築」  
栃木県鹿沼市立中央小学校 石 川 寿 江 校長  
＜実践発表3＞ 「連携を重視した校内の支援体制について」  
栃木県那須塩原市立三島小学校 富 山 篤 校長
  - (4) 指導・講評 15:50～16:00  
宇都宮市教育センター生活支援アドバイザー  
(元宇都宮市立戸祭小学校長) 大 瀧 伸 一 氏
  - (5) 閉会行事 16:15～16:30

☆研究協議会は参集とオンラインのハイブリット型で開催いたします。

大会参加申込締切日は9月15日でしたが、お問合せは大会事務局までお願いします。

(大会の最終案内は全特協のホームページにも掲載しています。)

【大会事務局】大会事務局長 宇都宮市立西小学校 校長 廻谷 敦士  
〒320-0861 栃木県宇都宮市西1丁目2-13  
TEL 028-634-6129 FAX 028-651-2782

**第3回 全国理事研究・研修協議会(和歌山県)開催のご案内**

○令和6年1月26日(金) 参集・対面式

- ・会 場 和歌山県 ホテルアパローム紀の国(和歌山県湊通丁北2丁目1-2)
- ・内 容 ①第3回 全国副会長研修会 9:00～11:30  
②ブロック会 11:30～12:30  
③理事研究・研修協議会 13:30～16:10  
ア開会行事  
イ研究協議  
ウ本部説明、諸連絡、閉会行事

☆ 本年度最後の「全国理事研究・研修協議会」となります。御参加をお願いいたします。  
東京での定期総会及び愛知県での全国研究協議会に、多くの方々に御参加いただきました。  
ありがとうございました。